

# 情報スパイス



岡部芳郎さん(1884-1945年)。エジソンのもとでトーカーの研究に携わったと伝えられている

## 岡部芳郎氏

# エジソン支えた日本人 大島商船卒だった

「学生時代の祖父が山口にいたなんて、初めて知りました」と、芳郎さんの孫にあたる芳彦さん(左)が神戸市灘区にあり新しすぎたのか失敗。その後神戸で鉄工所を経営し、スウェーデン、ノルウェーなど外国船の修理を手がけていたが、それが原因で第二次大戦前「スパイ容疑をかけられ、仕事に集中できなくな

## トーカー開発携わる

いた。それによると、芳郎さんは「X(判読不能)商船学校の練習生として渡航中、アメリカに残り、エジソン翁の会社につとめ」と記されている。しかしエジソンとの交流については触れていない。

### ゆかりの品々焼失

芳彦さんが、昨年九月に七十一歳で亡くなった父の多栄彦さん(芳郎さんの二男)から聞いた話では、市内福原町



トーマス・エジソン

アメリカの発明王トーマス・エジソン(1847-1931年)の研究室(ニュージャージー州)で、トーカーなどの開発を手伝った日本人は、山口県立大島商船学校(現大島商船高専)の卒業生だったことが分かった。その人は、1908(明治41)年卒の第5期生、故岡部芳郎さん。いままで商船学校を出ていることは伝えられていたが、校名ははっきりしていなかった。しかし昨

## 「もっと評価されるべき」

芳郎さんが持ち帰ったエジソンのサインペンを預かる「京都男山エジソン保存会」(会員百八)の立本三郎代表(左)は、「芳郎さんは、日本人の誇り。もっと評価されてほしい」と熱く語る。



芳郎さんがエジソンから帰国時に譲り受けたサインペン

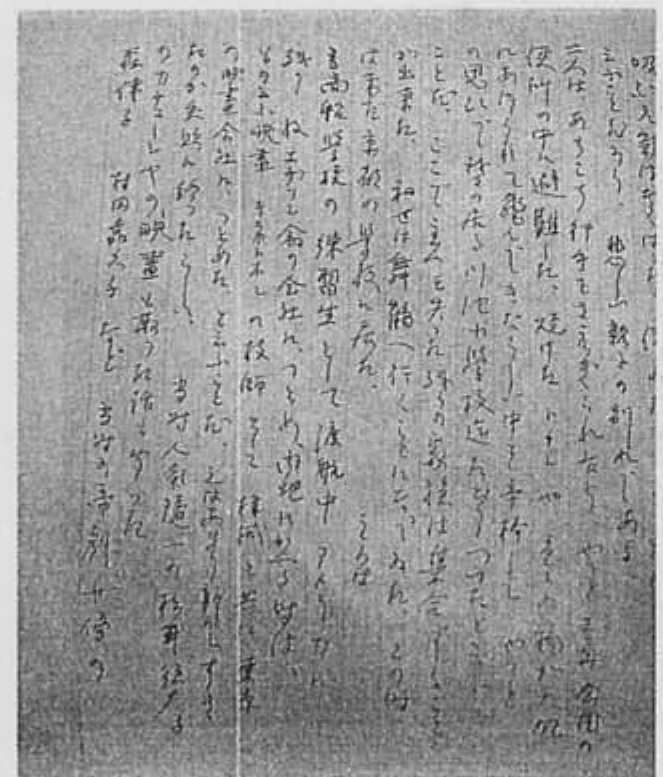
エジソンが発明した白熱電球のフィラメントには、京都府八幡市周辺の竹が使用されたと伝えられている。それにちなみ、立本さんが同様のフィラメントを七九年に再現。そのことをテレビ番組で知った多栄彦さんが感銘を受け「ぜひ」と、同会にサインペン保管を頼んだ。

## 京都男山エジソン保存会代表 立本三郎さん



「岡部さんの功績をもっと知ってほしい」と、エジソンが発明した蓄音機を前に話す立本さん(京都府八幡市内の自宅)

立本さんは、芳郎さんと親しかった人物から「暴漢に襲われたエジソンを、芳郎さんが得意の柔道で救った」「テーブルの上にお金があっても手をつけず、エジソンから信頼されていた」などのエピソードも聞いている。



芳郎さんの妻、利子さんが残したノート。夫がエジソンのもとで働いたことや、帰国後に映画会社にいたことなどが記されている

1884(明治17)年	4月9日	神戸市福原町生まれ
1901(同34)年		県立大島商船学校(現大島商船高専)機関学科入学
04(同37)年		遠洋航海船に乗船(船名など不明)。ニューヨークで体調を崩し、下船。ニュージャージー州で電気技師として働いた後、エジソンの「ウエスト・オレンジ研究所」に入る
08(同41)年		同校卒業
14(大正3)年		エジソンからトーカーの日本での代理権を得て帰国。女優松井須磨子のカチューシャなどを上映したと伝えられる
20(同9)年		鉄工所創業(年代不明)
45(昭和20)年	3月17日	利子さんと結婚。空襲により神戸市内で死亡。享年60



「祖父のことは、エジソンにまつわるサイドストーリーとしてとても興味深い」と、芳郎さんの妻、利子さんが残したノートを丹念に読み込む岡部芳彦さん(神戸市内の自宅)

の美家にはエジソンから譲り受けたカメラや蓄音機など多数の品があったが、一九四五(昭和二十)年三月の神戸大空襲でほとんどが焼失したという。

### 祖父の足跡「本に」

現在、芳彦さんは大阪大大学院博士課程で経済史を専攻する研究者の卵。「祖父についての詳しいことはまだほとんど不明。大島やアメリカに行つて資料、残されたエピソードなどをたどり、自分のライフワークとしていつの日かエジソンについてのエピソードは語り継がれてほしい」と夢見ている。母の福代さん(左)も「ぜひ完成させてほしい」と応援する。

## 3つの謎

- ①渡航時、東京日日新聞には「商船学校卒業後」とあるが、学籍簿によるとははまだ在学中となっている。
- ②渡航船は、エジソンの追悼会の模様を伝える新聞には「英国汽船(東京日日新聞)」「英国船レイ・キャッスル号」(報知新聞)とある。だが、妻利子さんのメモには「商船学校の練習生として渡航」としか書かれていない。
- ③新聞などで伝えられるように1904年に渡米し、14年帰国が正しいなら、卒業した08年は米滞在中のはず。

## 在校生「大きな目標」

エジソンと働いた人物が先な目標になる」と感動した様子のなかにいることを知り、子。同校出身で、現在、練習船大島商船高専にも喜びが広がっている。

### 「大島丸」の一等航海士、藤井敬治教官

「大島丸」の一等航海士、藤井敬治教官(左)は「機関学科で、柔道部主将を務める須磨秀文さん(心)は「今学んでいることが、世界で通用する」と学生時代に得た知識が、エジソンのもとでも役に立ったの